

年度 2009 学期 後期	曜日・校時 木・1	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	化学の基礎(有機化学の基礎)/Introduction to Chemistry (Introduction to organic chemistry)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 自然科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 尾野村 治 /Eメールアドレス: onomura@nagasaki-u.ac.jp /研究室: 薬学部3階医薬品合成化学教授室 /TEL:095-819-2429 /オフィスパワー:木曜日 16:00-17:00 (事前に連絡して下さい)			
担当教員(オムニバス科目等)	原武 衛 (第6-10回を担当)・山田耕史 (第1-5回を担当)		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい:日常生活に関わりのある物質、現象を化学の目でとらえ有機化学の基礎を学ぶ。これを通じて、有機化学に限らず、科学的なものの考え方を身につける。  授業方法:予習、復習の手助けとなるように教科書に沿って学ぶ。視覚教材も利用し理解を助ける。理解度をより深めるために適宜演習を実施する。  授業到達目標:日常生活に関わりのある物質、現象を化学的に説明できる。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要):山田耕史(第1-5回を担当)は日常生活に密接に関連した化学、原武衛(第6-10回を担当)は衛生・環境に纏わる化学を、尾野村治(第11-15回を担当)は医薬品や先端産業に関わる化学を中心に講義する。  第1回 暮らしの中の化学1:様々な分子の形(1章) 第2回 暮らしの中の化学2:身近な高分子(2,3章) 第3回 暮らしの中の化学3:分子の色と味と香の化学(2章) 第4回 暮らしの中の化学4:台所での化学反応(4章) 第5回 暮らしの中の化学5:身近な食品添加物、総括(4章) 第6回 体の中で働く高分子, タンパク質(4章) 第7回 身近な界面活性剤, 石鹸・洗剤(5章) 第8回 細胞を構成する界面活性剤, 脂質(5章) 第9回 環境中の有害物質, 内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)(8章) 第10回 化学物質と地球温暖化(8章) 第11回 病気と化学療法(5章) 第12回 医薬品の開発(5章) 第13回 アレルギーと神経伝達の化学(5章) 第14回 半導体の化学(6章) 第15回 エネルギーの化学(7章)  (括弧内は教科書の関連する章を示している)			
キーワード			
教科書・教材・参考書	はじめての化学-生活を支える基礎知識- 井上祥平 著 化学同人 2002年		
成績評価の方法・基準等	担当教員がそれぞれ100点満点で採点し、算出された平均点により評価する。 100点の内訳は講義への取り組み方30点、考査70点		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			